

平成20年度 上田市教育行政に係る事務の点検及び評価報告書

上田市教育行政評価懇話会

第1回 平成21年7月17日(金) 午前9時30分～午前12時

第2回 平成21年7月24日(金) 午前9時30分～午前12時

第3回 平成21年8月 5日(水) 午前10時～午前12時

上田市教育委員会

目 次

趣旨		1
上田市教育行政評価懇話会		1
自己評価の方法		2
自己評価の結果及び懇話会の提言内容等		
1	学ぶ意欲を育む環境づくりときめ細やかな支援体制づくり	
	魅力あるわかる楽しい授業の推進	学校教育課 3
	きめ細かな支援体制の充実	学校教育課 4
	小中一貫教育・幼保小中連携等教育改革の推進	学校教育課 5
	放課後児童対策事業	学校教育課 6
2	安全で安心な教育環境の整備	
	小中学校施設整備事業	教育総務課 7
	丸子学校給食センター改築事業	丸子学校給食センター 8
	武石児童館整備事業	武石地域教育事務所 9
	学校給食のあり方検討事業	教育総務課 10
3	歴史や風土を今に生かした文化芸術の振興	
	史跡等整備事業	文化振興課 11
	博物館等社会教育施設自主事業の推進	博物館 12
	城下町映画祭支援事業	文化振興課 13
	文化交流の拠点づくり事業	文化振興課 14
	文化支援事業	文化振興課 15
4	自分に生かし、人や地域に生かす生涯学習の推進	
	生涯学習基本構想普及促進事業	生涯学習課 16
	学校支援地域本部事業	生涯学習課 17
	図書館整備事業	生涯学習課 18
	青少年体験活動推進事業	生涯学習課 19
	人権同和教育推進事業	生涯学習課 20
5	スポーツ活動への参加促進と活動拠点づくり	
	総合型地域スポーツクラブ支援事業	体育課 21
	上田市スポーツ振興計画策定事業	体育課 22
	スポーツ施設整備事業	体育課 23

趣旨

平成20年4月1日に施行された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」において、各教育委員会は、効果的な教育行政の推進を図り、住民への説明責任を果たしていくため、教育に関する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を毎年行うことになりました。

昨年度に引き続き、目標管理制度において設定した教育委員会の平成20年度重点事業について、自己点検及び自己評価を行い、上田市教育行政評価懇話会において、有識者からご意見をいただきました。

これらの自己評価の結果や懇話会における委員からの意見を踏まえ、今後の教育に関する事業を改善していきます。

上田市教育行政評価懇話会

自己評価の結果等について、有識者の意見を聞くため「上田市教育行政評価懇話会」を設置し、7月17日、7月24日、8月5日の3回にわたって懇話会を開催しました。なお、委員には、上田市の教育に携わった経験があり、専門的な観点からの意見を期待できる次の7人に就任を依頼しました。

氏名	略歴	備考
堀内 泰	城南公民館運営審議会委員、行政相談員 元上野が丘公民館長、元東部中学校長	座長
宮下 蘭子	元真田町教育委員長	副座長
金井 紀代子	上田市選挙管理委員会委員 元丸子町公民館長	
児玉 けさみ	元武石村社会教育委員	
佐藤 智恵子	上田中央地域協議会委員 元第二中学校PTA副会長	
田村 保	元城南公民館長 元丸子中央小学校長	
中島 豊	長野大学社会福祉学部教授	

自己評価の方法

教育委員会の平成20年度重点事業を、次の4つの評価項目、8つの着眼点ごとに評価を行い、A～Eまでの5段階で総合評価を行いました。

1 事業評価

評価項目	着 眼 点
1 必要性	市民ニーズや社会経済情勢の現状にあっているか。
	事業を市が行う必要性があるか。
2 有効性	事業の目的の達成に向けて有効な手法か。
	各種計画等の目的の実現に寄与しているか。
3 目標達成度	目標の水準は適切か。
	計画通りに目標を達成できたか。
4 経済性・効率性	コスト縮減に務めているか。
	事務は効率的に行われているか。

2 総合評価

ランク	内 容
A	優れた取組が多く、十分成果が上がっている。
B	優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている。
C	一定の成果は上がっているが、課題もあり、更なる取組によって上位を目指す必要がある。
D	成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多く、更なる改善が必要である。
E	成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要である。

自己評価の結果及び懇話会の提言内容等

教育委員会の平成20年度重点事業の自己評価の結果及びそれに対する懇話会の提言内容等は、次頁以降の事業評価シートに記載のとおりです。

平成20年度 事業評価シート

1-①

事業名	魅力あるわかる楽しい授業の推進	担当課	学校教育課
------------	-----------------	------------	-------

取組方法(年度当初)	小中学校において、児童生徒が面白いと感じ、魅力あるわかる楽しい授業となるよう、授業評価を取り入れたり情報機器を有効に活用するなど、学校と教育委員会が一体となって取り組んでまいります。
-------------------	---

達成状況(年度末)	わかる授業の実現のため、全校の評価結果を検証し授業改善につながるよう、全小中学校で授業評価を取り入れました。また、情報機器を授業で効果的に活用できるよう、情報教育担当指導主事を中心に、全教職員対象とした研修会の実施、各校に出向いての支援、情報教育研究協議会を通しての研究を進めました。
------------------	--

具体的な取組内容	内容	事業費 (千円)	内国県補助金 (千円)
	授業評価(研究授業・公開授業、保護者・児童生徒・教員アンケート)	0	0
	情報教育研究協議会の開催(3回)	0	0
	情報教育担当指導主事による学校訪問等(講座19回、学校訪問75回)	0	0
	メディアコーディネーター派遣(3校45日)	965	0

自己評価	B
-------------	----------

今後の課題等	<p>授業評価と評価の結果分析については、学校でも進んできています。今後は、アンケート等でいただいた意見を分析し、児童生徒にとってわかりやすい、魅力ある授業とするための具体的な改善策を講じる必要があります。</p> <p>情報機器を活用した授業の実践に向け、情報教育担当指導主事が中心となり、メディアコーディネーターを活用するなど教職員のスキルアップが図れました。</p>
---------------	--

委員からの意見	<p>①この評価において、最も重要なことは子どもたちによる評価であり、子どもたちにとって、質の高い「楽しい」、「わかりやすい」授業であることが重要である。また、これまでの取組においては、評価の結果が反映され、改善されたことがなかなか見えてこない。子どもたちの意見をよく聞いて、今後の授業改善につなげていくことが必要である。</p> <p>②情報機器を利用することで、わかる授業になるわけではない。情報機器はあくまでもツールであり、それを利用することは、わかる授業になるための一つの手段である。理解できない子どもたちに理解してもらおうための方法などについて、先生が研修を受けることの方が重要である。</p> <p>③学校評価の公表において、数値による公表は誤解を招くので、今後改善すべき事項などを中心に公表するなど、公表の方法に工夫が必要である。</p> <p>④わかる授業を実施するためには、教材研究をきちんと行っておくことが基本であることを、あらためて先生方に認識してもらいたい。</p> <p>⑤今後評価が定着していくためには、教える側と学ぶ側が、達成すべき共通の目標を見つけ、その実現のために取り組んでいくことが必要である。</p> <p>⑥先生から生徒への声掛けの一言が、生徒のやる気や意識を高めていくことになる。このことは、若い先生には早く習得してもらいたいことである。そのためには、ベテランの先生が授業をより多く公開することが必要である。</p>
----------------	---

意見に対する考え方	<p>①、⑤授業に対する児童生徒の声を聞き、児童生徒が何につまずき、何を望んでいるかをしっかりと認識したうえで、児童生徒にとってわかりやすく興味、関心をもって学べる質の高い授業を行えるように教職員が常に授業を振り返り、分析と研究を繰り返しながら、創意工夫を持って授業内容を改善していくことが重要と考えます。</p> <p>②、④情報機器の活用は、授業の中で理解が難しい箇所、強調・注目させたい箇所等に効果が期待できます。情報機器をはじめとする授業で活用するすべての教材の効果を研究、研修し児童生徒に「わかる授業」を行うことが重要と考えます。</p> <p>③学校評価の公表は、学校目標、目標を達成するための取組、課題、改善点を学校関係者だけでなく、地域の方にも学校の取組がわかるよう、内容を工夫して公表することが重要と考えます。</p> <p>⑥教職員同士の授業公開は、授業を見直すうえで大変効果があり、重要と考えています。授業を公開し、見学するだけでなく、その授業のねらい等を話し合い、児童生徒の望む授業を実践するための手法の習得に努めることが必要と考えます。</p>
------------------	---

今後の方針等	<p>授業評価のアンケート項目等を精査し、評価結果を公開することにより情報の共有化を図り、児童生徒にとってわかりやすい、魅力ある授業とするための授業改善を推進します。情報機器の環境整備を進めるとともに、パソコン教室や普通教室で行う授業に電子黒板やプロジェクターなど情報機器を活用し、授業に音と映像などを取り入れることにより、児童生徒にわかりやすい授業を行うための授業支援、教材研究等のサポートを行います。</p>
---------------	--

平成20年度 事業評価シート

1-②

事業名	きめ細かな支援体制の充実	担当課	学校教育課
------------	--------------	------------	-------

取組方法(年度当初)	不登校やいじめ、外国籍児童生徒、発達障害等の支援を必要とする児童生徒あるいは保護者等に、個々のケースに応じたきめ細かい対応を心がけて、支援の充実を図ります。		
達成状況(年度末)	心の教室相談員、特別支援教育支援員を必要とする全小中学校に配置し、支援体制の充実ときめ細かな支援を行いました。また、教育相談所と関係機関等が連携し、保護者などを対象とした講演会や相談業務に取り組みました。東小と南小に設置している集中日本語教室「虹のかけはし」では、来日直後の外国籍児童生徒に対し日本語の習得指導を行うなど、学校生活への早期適応を支援し、両教室合計で22人が修了しました。		
具体的な取組内容	内容	事業費 (千円)	内国県補助金 (千円)
	児童生徒相談援助事業(心の教室相談員)	21,366	0
	特別支援教育支援員	29,765	0
	教育相談所運営事業費(教育相談所、中間教室、ネットワーク事業)	29,148	2,200
	虹のかけはしの運営	2,794	0
	外国人児童生徒日本語教育委託事業	3,740	0

自己評価	A
-------------	----------

今後の課題等	不登校児童生徒数の状況は、昨年度と比較すると小学校は横ばいの状況であり、中学校では減少しています。今後も、教育相談所を中心に中間教室や学校、家庭、関係機関等と連携して不登校傾向の児童生徒を支援していくことが必要です。 相談員や支援員等の専門性の向上ときめ細かな支援の充実を図るため、研修会や情報交換会を引き続き開催する必要があります。また、在籍児童数の状況に応じた人員配置を検討していくことが必要です。
上田市教育行政評価懇話会	<p>委員からの意見</p> <p>①心の教室相談員は、相談を受ける中において、学級担任に話せない内容がある。そのことを念頭において、経験豊かな心の教室相談員が十分に力を発揮するには、校長や教頭の適切な舵取りが必要不可欠である。</p> <p>②不登校児童を出さないための取組も重要である。</p> <p>③児童生徒には、自分の心を開き、自分を変えるきっかけとして、学校関係者だけでなく、いろんな方との幅広い交流を持ってもらいたいと考える。海の家での体験が登校につながったケースもある。</p>
意見に対する考え方	<p>①悩みを抱える児童生徒への対応については、校長の強いリーダーシップの下、教頭、学級担任、心の教室相談員などが連携を密にし、一致協力して対応することが重要です。相談員がきめ細かな相談・支援活動ができるよう校長を中心とした校内の連携・協力体制について十分な配慮をしております。また、研修会や情報交換の場を設けるなど支援してまいります。</p> <p>②教育相談所では、毎月全小中学校から心配される児童生徒の状況報告を受け、分析を行い、個別対応についての支援や助言を行っています。また、心の教室相談員も、不登校傾向の児童生徒の相談も行っています。今後も、引き続き情報の共有を図り、早期発見早期対応に心がけ、必要に応じ家庭訪問や学校訪問等を行うことが重要だと考えています。</p> <p>③ハローアニマルでの動物との交流活動や青少年自然の家での自然体験活動などを通して、心の安定を図り、集団生活での適応ができるよう支援しています。今後も、このような活動を取り入れていきたいと考えています。</p>
今後の方針等	児童生徒が抱える思いや悩みを受け止める相談体制や、多様な教育的ニーズのある子どもたち一人ひとりのケースに応じたきめ細かな支援を行うため、必要とする児童生徒数に応じた相談員や支援員等の配置を検討してまいります。また、研修会や連絡会を開催し専門性の向上を図り、支援の充実に努めてまいります。

平成20年度 事業評価シート

1-③

事業名	小中一貫教育・幼保小中連携等教育改革の推進	担当課	学校教育課
------------	-----------------------	------------	-------

取組方法(年度当初)	新学習指導要領が公示され、21年度からの移行措置を経て、24年度から完全実施されることになりました。学習指導要領の改正に的確に対応しながら、市としても独自に小中一貫教育、幼保小中の連携、五感教育の検討、キャリア教育の推進等の教育改革を進めます。		
達成状況(年度末)	菅平小学校、清明小、塩尻小では、中学校の教員が小学校で授業を行い、中学生生活を身近に感じ、見通しを持つことができるよう小中連携した教育を進めました。また、西小と清明小で五感教育の一環として、凸凹（デコボコ）教材（手で触りながら学習するため文字や数字が紙から浮き上がっている教材）を授業に取り入れたり、浦里小をモデル校としてコミュニティ・スクール導入の検討を始めるなど、新たな授業づくりや教育改革に向けた取組を推進しました。		
具体的な取組内容	内容	事業費 (千円)	内国県補助金 (千円)
	小中連携した授業の取組み	0	0
	中学校ブロック別の幼保小中連携連絡会の開催(会議、授業参観等)	0	0
	中学校ブロック別の校長・園長合同会議の開催	0	0
	デコボコ教材のモデル的導入	0	0

自己評価	A
-------------	----------

今後の課題等	<p>①小一プロブレム、中一ギャップの解消や学力向上に向け、中学校の専科教員が小学校で授業を行ったり、小中の教員が相互の授業を参観するなど、小中一貫教育や幼保小中連携の取組を更に研究する必要があります。</p> <p>②公開授業や公開保育での保育士、教職員の相互参観など、中学校ブロックごとの交流を更に推進し、配慮の必要な子どもへの対応など相互理解を深めながら、幼保小中の連携を図ることが必要と考えます。</p>
上田市教育行政評価懇話会	<p>委員からの意見</p> <p>①コミュニティ・スクールについては、地域の強い要望があつて導入されたことは理解できるが、今後、市として、どのように取り組んでいくかについては、十分な検討が必要である。</p> <p>②キャリア教育や五感教育など様々な教育が検討されているが、上田市として核にすべき教育を決定していく必要がある。</p>
意見に対する考え方	<p>①保護者や地域の住民が一定の権限と責任を持って学校運営に参画することにより、地域の皆さんの声を学校運営に反映させ、学校と保護者・地域が一体となって、よりよい学校を作り上げていくため、コミュニティ・スクールも一つの手法です。平成21年度から文部科学省の調査研究事業に参加するとともに、結果を検証し、課題や方向性を明確にしなが、導入について検討してまいります。</p> <p>②児童・生徒一人ひとりの勤労観、職業観を育て、変化の激しいこれからの社会に対応するため、キャリア教育や五感教育などとおして基礎的な知識・技能を修得し、子どもたちの他人を思いやる心や感動する心など豊かな人間性を育て、たくましく生きるための教育を大切にしています。今後、学校からの声や学習指導要領の内容等を踏まえ、時代を見据えた教育について、更に検討してまいります。</p>
今後の方針等	<p>①小中一貫教育や小中連携事業については、小中9年間を見通し、中学校の専科教員が小学校で授業を行う教科担任制を実施し、学力向上と中一ギャップ解消につなげるなどの効果を検証し、他の学校でも実施ができるよう研究を深めていきたいと考えています。</p> <p>②幼保小中連携では、授業参観や交流活動を通して、配慮が必要な子どもへの対応や小一プロブレム解消のため情報を共有し、保育士、教職員の相互理解を深めながら、連携を図ることが必要だと考えています。</p>

平成20年度 事業評価シート

1-④

事業名	放課後児童対策事業	担当課	学校教育課
------------	-----------	------------	-------

取組方法(年度当初)	児童館・児童センター、こども館、放課後児童クラブの3種類に分かれ、地域ごとに運営内容に差がある放課後児童施設のあり方を根本的に見直し、21年度から新しい方針で事業が実施できるよう準備を進めます。		
達成状況(年度末)	放課後児童施設を、健全育成施設と留守家庭対策施設の大きく二種類に再編しました。21年度から、健全育成施設である児童館・児童センターと留守家庭対策施設である児童クラブ・学童保育所について、開所時間の延長、人員体制の充実、保育料の統一等新たな内容で運営し、全施設に指定管理者制度を導入することとしました。		
具体的な取組内容	内容	事業費 (千円)	内国県補助金 (千円)
	児童館・児童センターを健全育成施設と位置づけました。	0	0
	上田地域のこども館、丸子地域の児童クラブ、真田地域のふれあいの館を児童クラブとして統一し、学童保育所と併せて、放課後児童クラブとして留守家庭対策施設と位置づけました。	0	0
	児童クラブの運営時間を放課後(学校休業日は午前8時)から午後7時までまでに延長して統一、土曜日を全館開館としました。	0	0
	放課後児童クラブの利用料金について、児童クラブ、学童保育所ごとに統一しました。	0	0
	児童クラブの職員について、利用児童数に応じた配置としました。	0	0

自己評価	B
-------------	----------

今後の課題等	各施設の運営内容については、合併前の旧市町村で異なっていたものを統一することができましたが、特に留守家庭対策施設のハード面について、老朽化、狭隘化といった問題点が顕在化しつつあるので、今後の対応が必要といえます。
上田市教育行政評価懇話会	<p>委員からの意見</p> <p>①担当職員と子どもたちの関係は、非常に良好であると聞いており評価できる。一方で、いつも同じ仲間であることから、小さなコミュニティが形成されてしまっており、広がり欠ける感がある。例えば、公民館の将棋クラブに習いを請うなど、地域の方とのつながりが出てくれば、もっと豊かな時間が過ごせるようになると思う。</p> <p>②各施設を健全育成施設と留守家庭施設に役割分担ができたことは、今後の取組に期待ができる。</p> <p>意見に対する考え方</p> <p>①地域との連携については、ボランティアの皆さんとの連携を中心として各館ごとに取り組んでいます。季節行事、交流行事、伝承・文化活動等における地域の方との連携を、積極的に図るよう取り組んでまいります。</p> <p>②健全育成施設はその名のおり児童の健全育成を担い、留守家庭施設は保護者の就労支援と児童の健全育成の両方を担っていく施設ですが、健全育成施設と留守家庭施設それぞれの役割が発揮できるよう引き続き取り組んでまいります。</p>
今後の方針等	留守家庭対策施設の施設整備については、施設の運営状況を見ながら、市の実施計画に位置づけた上で計画的な整備を図っていきたいと考えております。

平成20年度 事業評価シート

2-①

事業名	小中学校施設整備事業	担当課	教育総務課
------------	------------	------------	-------

取組方法(年度当初)	塩田中学校改築事業に係る既存校舎（特別教室棟）の解体、第1・2工区（南校舎及び北校舎）の建設に着手（平成22年12月完成予定、平成20年度予定進捗率：40%） 川辺小学校プールの移転改築事業を実施（平成21年3月完成予定） 小中学校の耐震診断（第二次診断）を16棟程度実施（平成19年度：15棟） 小中学校の耐震改修事業を2校で計3棟実施（平成19年度：0棟）		
達成状況(年度末)	塩田中学校特別教室棟の解体は6月に完了し、2箇年計画で進めている第1・2工区（南校舎及び北校舎）の建設は、平成20年度40%の進捗予定に対し、約44.6%の進捗率を達成し、順調に工事が進みました。 川辺小学校プール移転改築事業は、3月に竣工し引渡しが完了しました。 小中学校の耐震診断は、当初予定の16棟の診断が完了しました。（昨年度比1棟増）。また、これまで実施してきた診断状況について3月に公表しました。 小中学校の耐震改修事業は、2校で計4棟が完了し、教育環境の整備が進みました。（昨年度比4棟増）		
具体的な取組内容	内容	事業費 (千円)	内国県補助金 (千円)
	① 塩田中学校改築事業 特別教室棟解体、南校舎・北校舎建設(20年度分)	734,545	228,925
	② 川辺小学校プール移転改築事業	133,126	43,766
	③ 小中学校校舎耐震診断	28,350	9,123
	④ 小中学校校舎耐震改修事業	85,544	56,745
	⑤ 小中学校施設営繕事業	215,388	17,654

自己評価	A
-------------	----------

今後の課題等	学校施設における耐震診断は平成18年度より順次実施しているが、未実施の建物についても、今後早期に診断を終了するよう努める必要があります。 耐震診断結果により、耐震強度不足の校舎等については、早期に耐震化を図る必要があります。 耐震化工事や大規模な営繕工事は長期休業中に集中するため、計画的な実施が必要となります。 老朽化が顕著な施設については、計画的に改築事業を実施していく必要があります。
委員からの意見	① P T A作業などの状況や地域の要望を勘案して、なるべく早い施設の整備を期待する。 ② 災害時には、学校などは避難場所となることから、耐震診断をなるべく早く進め、安全・安心な施設として整備が進むことを期待する。
意見に対する考え方	① 今後も、簡易な補修等については、P T A作業等地域の皆様の協力をいただきながら、より学校の実情や要望に即した学校施設整備に努めてまいります。 ② 学校施設の耐震化は、保護者の皆様をはじめ地域からの要望も高い事業であるため、耐震診断については、今後も可能な限り早期終了に向けて努力するとともに、耐震診断結果に基づく耐震補強工事等も計画的に進め、安全・安心な学校施設の機能向上を図ってまいります。
今後の方針等	緊急性や特殊性の高い工事、施行条件等が制約される工事等も想定されるが、より計画的な執行に配慮し、最大限の効果が得られる事業となるよう努めていきます。 また、小規模な修繕や日常の校内作業だけでは管理が行き届かない箇所の整備等については、緊急雇用創出事業を活用し作業員を雇用することにより、きめ細かな学校施設の環境整備を図ってまいります。

平成20年度 事業評価シート

2-②

事業名	丸子学校給食センター改築事業	担当課	丸子学校給食センター
------------	----------------	------------	------------

取組方法(年度当初)	丸子学校給食センターは移転改築を完了し、二学期当初から新施設における給食業務を開始します。		
達成状況(年度末)	2カ年計画で19年度に着手した丸子学校給食センター改築事業については、20年4月に発生した火災事故により、20年度早期の竣工には至らなかったものの21年3月に竣工し引渡しを受けました。		
具体的な取組内容	内容	事業費 (千円)	内国県補助金 (千円)
	建築主体工事	244,650	139,746
	機械設備工事	156,975	0
	電気設備工事	68,250	0
	厨房設備工事	173,040	0
	太陽熱高度利用工事	89,250	44,625

自己評価	A
-------------	----------

今後の課題等	<p>今後は一日も早く機器等の操作を習得し、安全で安心なおいしい給食の調理と効率のよい作業手順となるよう努力していきます。21年4月当初からは、丸子地域の児童生徒に新丸子学校給食センターで調理した給食を提供しております。なお、外構工事は21年度に実施します。</p>
上田市教育行政評価懇話会	<p>委員からの意見 2-④学校給食のあり方検討事業による。</p> <p>意見に対する考え方 2-④学校給食のあり方検討事業による。</p>
今後の方針等	<p>平成21年4月1日に施行された改正学校給食法の目的が、「食生活の改善」から「食育の推進」に転換されたことにより学校給食センターとしてできる「食育」を進めてまいります。今後安全で安心できるおいしい給食を提供するため、地元産の食材の使用量を増やすよう上田市地産地消推進会議と連携を図ります。行事食など食文化の継承のための取組を推進します。自然の恵み、食にかかる多くの人々への感謝の気持ちを子供たちに理解してもらえよう学校給食連絡帳や校内放送により周知します。</p>

平成20年度 事業評価シート

2-③

事業名	武石児童館整備事業	担当課	武石地域教育事務所
------------	-----------	------------	-----------

取組方法(年度当初)	武石地域の子育て拠点施設として平成21年度建設予定である武石児童館の建設用地整備と実施設計を行います。		
達成状況(年度末)	武石児童館建設予定地の既存建物の解体工事を11月に完了しました。また、次年度の児童館建設に向け、10月から進めてきた実施設計を3月に完了しました。		
具体的な取組内容	内容	事業費 (千円)	内国県補助金 (千円)
	児童館実施設計	3,570	0
	用地整備(既存建物解体工事)	11,550	0
	用地測量	471	0

自己評価	A
-------------	---

今後の課題等	地域に根ざした児童館づくりの基礎となる設計が、地域協議会、子育て支援を考える会等の地元団体の多くのご意見をいただき完成できました。今後も地域に密着した住民が利用しやすい児童館づくりが必要であり、児童館の施設整備とともに管理運営も検討していくことが必要です。
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見 ①武石児童館の運営主体をどうしていくのかが、現在最も大きな課題となっている。地域に根ざした管理運営ができるためにも、地域住民を中心とした運営方法となることを期待する。
意見に対する考え方	①指定管理者は公募により決定されるが、公募の条件の提示や指定管理者との話し合いを進め、地域に根ざした管理運営となるよう配慮していきたいと考えております。
今後の方針等	地域の要望に応えられる施設整備を進め、地域に根ざした管理運営ができる指定管理者を選定します。

平成20年度 事業評価シート

2-④

事業名	学校給食のあり方検討事業	担当課	教育総務課
------------	--------------	------------	-------

取組方法(年度当初)	旧市町村ごとに調理方式、安全・安心、栄養価、食育、地産・地消、アレルギー対応等、給食提供方式に差異があることから、学校給食運営審議会を設置し、新市における給食運営に係る指針づくりを進めます。		
達成状況(年度末)	当市と同様に市町村合併があり、センター方式と自校方式、直営方式と委託方式など様々な方式が混在する岐阜県各務原市を視察し、今後の検討資料としました。なお、学校給食運営審議会の設置には至りませんでした。		
具体的な取組内容	内容	事業費 (千円)	内国県補助金 (千円)
	先進地(岐阜県)視察	0	0

自己評価	C
-------------	----------

今後の課題等	<p>新市における学校給食の指針づくりは、今後の食育、施設整備、人事体制等を検討する上で重要な事業です。地域毎に給食提供スタイルに差異があることを踏まえて、時代にあった指針づくりを進めます。</p> <p>具体的な課題としては、地域毎に異なっている給食提供方式をどのように整理するか、食育をどのように進めるか、民間活力の導入は可能か、等々があります。</p>
上田市教育行政評価懇話会	<p>委員からの意見</p> <p>①指針づくりにあたっては、各地域の良さを取り入れて作成してもらいたい。また、学校教育において、食育は重要な位置付けにあるので、特に大事にする必要がある。</p> <p>②学校給食運営審議会を設置すべき目的・意図をもっと明確にすべきである。</p> <p>③目標の達成状況から判断すると、評価の再検討が必要である。</p>
意見に対する考え方	<p>①学校給食については、これまで各地域ごとに調理方式、安全・安心対策、栄養摂取、食育、地産・地消、アレルギー対応等それぞれの地域に合った、また地域の特色を生かした運営を行ってきています。指針づくりに際しては、必ずしも全項目に渡って全市共通の指針とすることに拘らず、地域で長い間積み上げてきた方式や特徴を生かすことも大事と考えております。</p> <p>食育については、平成21年4月1日に施行された改正学校給食法の中でも主要目的として位置づけられており、児童生徒の健全な発達に重要な役割を果たすことから、指針づくりの際も大事な項目として考えていきます。</p> <p>②新市における学校給食の指針づくりに際しては、市の考え方だけではなく有識者の方、学校現場の方、保護者の方等幅広い立場の方の意見を踏まえた審議が必要と考えており、そのために学校給食運営審議会を設置したいというものです。</p> <p>③自己評価については、達成状況だけではなく、この事業の必要性や有効性といった面も含めて評価をしたところですが全体を通して再度見直しました。</p>
今後の方針等	<p>現状の整理、国の法律改正等社会的な要請、他市の状況等を調べた後、庁内検討を行いながら指針案の作成を行います。その後、有識者や学校関係者、保護者など外部の人の意見を聴くために学校給食運営審議会を設置し、十分に審議をいただきながら指針策定を進めてまいります。</p>

平成20年度 事業評価シート

3-①

事業名	史跡等整備事業	担当課	文化振興課
-----	---------	-----	-------

取組方法(年度当初)	<p>上田城跡整備基本計画を進めるため検討委員会を開催し、今後の具体策の検討を行うとともに、石垣の危険度調査に向けた準備を行います。 信濃国分寺跡整備を図るため、史跡指定地内の土地取得と発掘調査を引き続き実施します。</p>		
達成状況(年度末)	<p>上田城跡整備については検討委員会の委員構成の見直しと新たに委員会設置要綱を制定したが、委員会の開催には至りませんでした。また、石垣の危険度調査については必要な準備を進めるとともに、西櫓の石段に手すりを設置するなど安全面での事業を行いました。 信濃国分寺跡は、史跡指定地の土地のうち1,054.35㎡を取得し、平成18年度から20年度までに取得した土地2,088.71㎡についての発掘調査を終了しました。</p>		
具体的な取組内容	内容	事業費 (千円)	内国県補助金 (千円)
	「史跡上田城跡整備実施計画検討委員会設置要綱」を設置	0	0
	上田城跡整備事業	963	0
	信濃国分寺跡整備事業	46,656	36,569

自己評価	B
------	---

今後の課題等	<p>史跡上田城跡については、多くの市民や観光客が訪れており、安全で安心して利用できるような危険箇所 の整備や石垣危険度調査の準備を進めてきました。また、上田市を代表する史跡であり、市民の憩いの場 や観光の拠点でもあることから、今後も、利用のし易さに配慮しつつ、史実に基づいた整備を進めていく 必要があります。</p> <p>史跡信濃国分寺跡については、地域住民の協力により史跡指定地内の土地取得を進めています。具体的 な整備方法については、新たに取得した土地の発掘調査の成果をもとに、実施計画を作り整備を進めてい く必要があります。</p>
上田市教育行政評価懇話会	<p>委員からの意見</p> <p>①予算的なこともあるが、上田城や国分寺における整備を中心としつつも、東山道や北国街道周辺の歴史 的遺産の活用などについても検討されることを期待する。</p> <p>②観光客のニーズは天守閣の復元にあるようだが、そこまで至らなくても、上田城跡の整備を積極的に進 められることを期待する。</p> <p>③史跡上田城跡整備実施計画検討委員会において、城跡としての整備とあわせて、上田城跡を市民の憩い の場所である公園として、そのあり方についても検討をお願いしたいと考える。</p>
意見に対する考え方	<p>①各公民館や博物館・国分寺資料館等と連携し、東山道や北国街道周辺の歴史的遺産について学ぶ機会を つくることにより、文化財に対する理解と意識の醸成を図ってまいります。また、その中で、文化財とし て特に重要と思われるものがあれば、指定も検討してまいりたいと考えています。</p> <p>②上田城跡の整備には文化庁から史実に忠実な復元を求められており、整備を進めるにあたっては「史跡 上田城跡整備実施計画検討委員会」の開催が必要となることから、同委員会を早期に開催して整備につ いて検討していきたいと考えています。</p> <p>③上田城跡の整備にあたっては、史実に基づいた整備が前提となりますが、検討委員会には、公募委員及 び関係団体から推薦された委員に入ってくださいことにより、利用者である市民の視点から整備につ いてご意見をいただきたいと考えています。</p>
今後の方針等	<p>史跡上田城跡については、「史跡上田城跡整備実施計画検討委員会」を開催し「史跡上田城跡整備基本 計画」に基づいた具体的な整備方法の検討を行います。</p> <p>史跡信濃国分寺跡については、「史跡信濃国分寺跡保存整備基本計画」に基づいた史跡指定地内の土地 取得を引き続き進めます。また、取得した土地については、発掘調査を行い実施計画の資料とします。</p>

平成20年度 事業評価シート

3-②

事業名	博物館等社会教育施設自主事業の推進	担当課	博物館
------------	-------------------	------------	-----

取組方法(年度当初)	地域にまつわる歴史的・文化的な遺産をテーマとした特別展や講座等を開催します。(市立博物館5回、山本鼎記念館11回、信濃国分寺資料館11回、丸子郷土博物館5回、ともしび博物館6回の開催を予定)		
達成状況(年度末)	各施設で特別展示、講座等を開催しました。市立博物館(特別展4・講座等4)、山本鼎記念館(山本鼎版画大賞展・特別展5・講座等7)、信濃国分寺資料館(特別展3・講座等7)、丸子郷土博物館(特別展1・講座2回)、ともしび博物館(特別展2・教室等6)。		
具体的な取組内容	内容	事業費 (千円)	内国県補助金 (千円)
	博物館特別展「新収蔵資料展」(会期中入館者17,401人)	81	0
	山本鼎記念館「第4回山本鼎版画大賞展」(応募作品数517点、展覧会入館者数1,223人)	2,697	0
	資料館特別展「鎌倉の古代・中世文化と上田地方展」(会期中入館者2,577人)	1,955	0
	丸子郷土博物館特別展「昭和の子ども」(会期中入館者数721人)	129	0
	上記の外、各施設における特別展、講座等の開催		

自己評価	B
-------------	----------

今後の課題等	平成19年放映のNHK大河ドラマ「風林火山」の放送終了をうけて、上田地域を訪れる方が減少したため、全般的に昨年度に比べて入館者数が減少しました。このことから、観光客の増減に影響されることがない各施設の特色を生かした魅力ある展覧会の企画が必要と思われます。 各施設の講座は、継続的に実施されているものがあり、地域の文化振興に貢献していますが、参加者の固定化が見られることから、テーマ・内容・回数等を精査して、新しい受講者が増加するよう努力する必要があります。
上田市教育行政評価懇話会	<p>委員からの意見</p> <p>①市民が国分寺にもっと関心を持つような工夫が必要である。(例：資料館において、デジタル映像を活用して、当時の様子を再現する。)</p> <p>②入館者が増えるためにも、博物館等関係施設による共同事業の実施に期待する。</p> <p>③共同事業の一つである蚕都上田展の開催にあたっては、多くの方に来てもらうためには、他市(例：横浜市)との連携も必要である。</p> <p>④特色が強いネーミングは対象者を限定する。蚕都を含め、企画展のネーミングは、市民にとってわかりやすいものにすべきである。</p> <p>⑤子どもたちにも、博物館に関心をもってもらえるように、学校との連携が必要である。</p> <p>意見に対する考え方</p> <p>①資料館をはじめ各施設における常設展示等の見直しを検討します。その中で、デジタル映像の活用についても研究してまいります。</p> <p>②今年度、博物館と丸子郷土博物館で蚕都上田展を共同で開催する予定です。今後は、全関係施設でテーマを統一した展覧会の開催も検討しています。</p> <p>③展覧会にあわせて、横浜コーナーの設置や講師を招いての講演会の開催などを検討しています。</p> <p>④市民に理解してもらえるように工夫します。</p> <p>⑤学校での出張歴史教室の開催や二中フォーラムへの参加など、学校との連携に努めていますが、今後さらに、子どもたちにもわかりやすい展示の工夫や、校長会での周知などを検討します。</p>
今後の方針等	展覧会、講座のテーマ・内容等を市民ニーズにあった、より一層魅力あるものとし、各講座への新たな参加者や、各施設へのリピーターの増加につながるよう努めます。 各施設や学校との連携事業を積極的に進めるよう検討します。

平成20年度 事業評価シート

3-③

事業名	城下町映画祭支援事業	担当課	文化振興課
-----	------------	-----	-------

取組方法(年度当初)	フィルムコミッション活動の高まりにあわせ、内容の充実やPR強化により、城下町映画祭の参加者を増やします。		
達成状況(年度末)	第12回城下町映画祭は、上田ロケ作品の上映を核にし、内容の充実に取り組んだ結果、入場者数・売上ともに、前年の実績を上回り、内容的にもこれまでの映画祭を回顧する記念的な映画祭となりました。		
具体的な取組内容	内容	事業費 (千円)	内国県補助金 (千円)
	①文化公演事業負担金	2,000	0

自己評価	B
------	---

今後の課題等	<p>城下町映画祭の参加者（入場者）数を増やすことを目標とし、実行委員会をあげての努力によって達成することができました。また、H19年～20年は市内での映画ロケが多かったこともあり、上田ロケ作品にこだわった「城下町映画祭」らしい映画祭としながら、参加者数を増やすことができました。市民が参加した上田ロケ作品や、普段、興行としては見ることができない古今の日本映画の秀作の鑑賞機会を提供するという城下町映画祭の存在意義を保持しながら、どのようにして映画祭全体の人気や評価につなげていくかが今後の課題です。</p>
上田市教育行政評価懇話会 委員からの意見 意見に対する考え方	<p>①この城下町映画祭は、市内ロケ作品を中心に上映しており、特色ある取組であると評価している。しかしながら、全国からファンがなかなか集まってこないのが、今後は核となる企画を立案する必要があると考える。（例：時代劇作品を中心とした上映など）</p> <p>②年間で2日間の事業であるのは非常にもったいない。年間を通じてPRする方法などを検討し、年間を通じた事業となることを期待する。</p> <p>①城下町映画祭は、市民が映画文化を育む活動に関わっていくための仕組み（地元ロケ作品の鑑賞）づくりであり、映画関係者と市民との交流の場（ゲストトーク）であり、市内ロケによるだけでなく上田から映像作品を発信していく場（自主制作映画コンテスト）であり、更に、日ごろ興行としては見ることが困難な古今の日本映画の秀作を鑑賞する場となっています。</p> <p>特に「日本映画」「上田ロケ作品」の上映にはこだわりつつ、かつ、毎年テーマを決めながら企画に当たっています。このような基本路線を踏まえながらも、ご指摘のように、内外から大勢のファンを集めることも念頭に置き、できる限り力を持った作品を上映できるよう、最大限の努力をしてみたいです。</p> <p>②映画祭そのものの規模を拡大することは困難ですが、より広がりを持った形にすることは重要な課題と考えます。他地域で開催されている映画祭の手法なども参考としながら、PR方法を改善してみたいです。</p>
今後の方針等	<p>市民が参加した上田ロケ作品や、普段、興行としては見ることができない古今の日本映画の秀作の鑑賞機会を提供するという城下町映画祭の存在意義を保持しながら、さらに参加者（入場者）を増やせるよう、実行委員会の中で検討を重ねていきます。</p>

平成20年度 事業評価シート

3-④

事業名	文化交流の拠点づくり事業	担当課	文化振興課
------------	--------------	------------	-------

取組方法(年度当初)	広域的な文化交流の主体となる、市内文化団体の連携事業を進めるほか、3年毎に開催する山本鼎版画大賞展の開催により、上田の文化芸術活動を全国にアピールします。		
達成状況(年度末)	<p>新たな取組として、3回シリーズの文化講演会（計1,420人聴講）を市内の3文化団体の連携により開催しました。</p> <p>山本鼎版画大賞展は、応募作品数517点、展覧会観覧者数1,223人で、応募作品数及び展覧会観覧者数がともに前を下回りましたが、全国から質の良い作品の応募があり、山本鼎の業績や上田の文化芸術活動をアピールする機会とすることができました。</p>		
具体的な取組内容	内容	事業費 (千円)	内国県補助金 (千円)
	①文化公演事業負担金	1,000	0
	②山本鼎版画大賞展負担金	2,400	0

自己評価	B
-------------	----------

今後の課題等	<p>「シリーズ文化講演会」は、各会場の収容定員を上回るほどの聴講者を集める人気でした。各文化団体の主体性を保持しながら、シリーズ全体として、いかに魅力的な事業内容としていくのが今後の課題です。</p> <p>山本鼎版画大賞展は、全国公募の作品展として定着し、山本鼎と上田を全国にアピールすることができましたが、今後は、その成果をいかに地域の文化・芸術の振興に反映させるかが課題です。</p>
上田市教育行政評価懇話会	<p style="text-align: center;">委員からの意見</p> <p>①シリーズ文化講演会を3地域で開催したことは評価できる。また、会場の収容人員を上回るほどの人気であったことから、今後に期待がもてる事業である。</p> <p style="text-align: center;">意見に対する考え方</p> <p>①講演の内容が、話題性がありタイムリーであったことから多くの市民に関心を持っていただいたと考えております。また、各文化団体の皆さんが意欲的に開催準備に取り組んでいただけたことが成果と考えています。この成果を糧に、全市的な事業として充実していけるよう努めてまいります。</p>
今後の方針等	<p>「シリーズ文化講演会」に取り組む中で、市内の文化交流が深まることを目指していますが、そのためにも、各地域の文化団体関係者や聴講者の要望も参考にし、多くの市民に興味を持っていただける内容になるよう、引き続き取り組んでまいります。</p> <p>また「山本鼎版画大賞展」を通じて、文化交流の拠点として上田市の存在感を内外に示していけるよう、今回の成果と反省を踏まえ、次回に向けて実行委員会で検討を重ねていきます。</p>

平成20年度 事業評価シート

3-⑤

事業名	文化支援事業	担当課	文化振興課
------------	--------	------------	-------

取組方法(年度当初)	市民が自主的に運営する鑑賞事業については、文化支援事業として会場や告知、財政面での支援（補助金交付）を行うとともに、丸子・真田・武石地域へも制度周知を図り、新たな文化事業の掘り起こしに努めます。		
達成状況(年度末)	文化支援事業は、20年度下記の13事業を支援しました。 【音楽】上田平和音楽祭、箏の祭典in上田、バリアフリーコンサート、長野国際ゴスペルフェスティバル2008、UEDA Music Festival' 08、FUMFAM、Blow up、【演劇】うえだ子ども劇場地域公演、劇団TOKYOBOWZ公演、【歌劇】ミュージカルオペラ「魔法の笛と鈴」、【落語】うえだ正月寄席、【講演会】東信美術会、文化芸術協会 H21年度事業の募集結果は、20年度支援件数をわずかに下回ったものの、3件の新規事業を含む12件の応募がありました。		
具体的な取組内容	内容	事業費 (千円)	内国県補助金 (千円)
	上田市文化支援事業補助金	2,253	0

自己評価	B
-------------	----------

今後の課題等	文化支援事業制度そのものの知名度は広がってきていると考えますが、事業によっては、前年秋の募集→審査→予算どり→事業開催→補助金交付というプロセスに乗せにくいものもあり、今後の課題と考えています。
上田市教育行政評価懇話会	<p>委員からの意見</p> <p>①文化支援事業補助金は、前年の応募の締切に間に合わなかった場合には、受けることができない。応募期間を年2回に分けるなど、もう少し弾力的な運用の検討が必要である。</p> <p>②昨年度の事業名と比較すると、今年度の事業名には市民の表記がない。市民が主体となった事業であるため、また、周知の面からも、事業名の検討が必要である。</p> <p>意見に対する考え方</p> <p>①文化支援事業補助金の弾力的な運用ができるよう、来年度に向けて制度の改善に着手してまいります。</p> <p>②「文化支援事業」という名称で旧上田市時代から数え6年を経過し、すでに定着している事業名ですが、上記の制度内容の改善に合わせ、変更が必要かどうか、今後検討してまいります。</p>
今後の方針等	上田市において、市民発の文化事業（鑑賞事業）が、より多く生まれるよう、これを誘発・助長する仕組みとしての文化支援事業制度の改善に取り組み、PRに努めてまいります。

平成20年度 事業評価シート

4-①

事業名	生涯学習基本構想普及促進事業	担当課	生涯学習課
------------	----------------	------------	-------

取組方法(年度当初)	平成20年4月からスタートした、生涯学習における施策を計画的に進めていく指針である「生涯学習基本構想」をPRするため冊子やダイジェスト版、概要版を作成するとともに、講演会やシンポジウム、ワークショップなど、生涯学習について学習や話し合いができる機会や場を設け、生涯学習の普及と啓発を行います。		
達成状況(年度末)	<ul style="list-style-type: none"> ・基本構想の普及と啓発を図るため、冊子とダイジェスト版、概要版を作成し、市民団体の交流会やシンポジウム会場などで啓発活動、資料配布を行いました。 ・生涯学習の普及と啓発のため、生涯学習シンポジウムを開催しました。 ・出前ときめきのまち講座のメニューを生涯学習基本構想を盛り込んだものに作り変えました。 		
具体的な取組内容	内容	事業費 (千円)	内国県補助金 (千円)
	生涯学習基本構想及びダイジェスト版の作成と配布、ホームページへの掲載	272	0
	出前ときめきのまち講座のメニューをリニューアル	0	0
	生涯学習シンポジウムの開催 (11月22日/120名)	89	0
	生涯学習市民大学の実施(6施設/64回/1,265名)	1,005	0
	地域人材養成事業「信州上田夏季大学」の開催(8月30・31日/9分科会132名)	300	0

自己評価	B
-------------	----------

今後の課題等	参加型の事業は、参加者に偏りが見られる傾向があります。生涯学習に関わる事業は、広範囲に渡るため、テーマの設定が難しく、また、事業の実施も市長部局までに及ぶため、それぞれの担当課と連携をし、事業の実施状況を把握して対応していける体制を構築することが課題です。
上田市教育行政評価懇話会	<p>委員からの意見</p> <p>①市内の4大学との講座連携は、新しい試みであり、今後の展開を期待する。</p> <p>②市民大学は事前申込制であることは認識しているが、講座によっては当日参加を認めてもらえると、参加者がもっと増えると考えます。</p> <p>意見に対する考え方</p> <p>①4大学との連携は、各大学の担当者と話し合いをしながら進めてきており、受講者のアンケートなどを行い、要望などを参考に次年度に向けて内容を充実させていきたいと考えています。</p> <p>②参加の機会を増やせるよう当日受講にも対応していきたいと考えています。</p>
今後の方針等	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習基本構想の推進における事業評価や体制について、社会教育委員に諮問し検討していきます。 ・生涯学習情報の収集と発信についてのあり方の検討を進めるとともに、市民活動の交流を図っていきます。

平成20年度 事業評価シート

4-②

事業名	学校支援地域本部事業	担当課	生涯学習課
------------	------------	------------	-------

取組方法(年度当初)	地域全体で学校教育を支援し、教員が子どもと向き合う時間の拡充を図るために平成20年度から導入された国の委託事業に、塩田中学校を支援対象として応募し、学校の要望を聞きながら塩田公民館を中心に具体的な支援活動を行います。		
達成状況(年度末)	10月に学校支援地域本部を設置し、学校の要望等を聞きながら、運営協議会で具体的な事業を検討して、学習支援活動と環境整備活動を実施することが決定されました。それぞれの分野でボランティアを募り組織化して、学校での支援活動を行い生徒とのコミュニケーションを深めることができました。		
具体的な取組内容	内容	事業費 (千円)	内国県補助金 (千円)
	文部科学省の第二次募集に申請(6月2日)し、採択	416	416
	塩田地域学校支援運営協議会の設置と会議の開催(12名/4回開催)	0	(委託料)
	委員やPTA有志による、空き教室の改装作業(1月25日/28名)	0	0
	住民ボランティアによる学習支援事業の実施(2月23日～3月13日/20名)	0	0
	住民ボランティアによる環境整備活動の実施(40名/6回)	0	0

自己評価	A
-------------	----------

今後の課題等	事業の取組について新聞報道やホームページ、行政チャンネル、公民館だより、事例発表などでPRを行いながら、新たな事業展開に広げることができました。話し合いを続けながら、学校側との共通の認識を持ち、互いに理解をしながら、双方に負担感がないように進めていくことが課題です。
上田市教育行政評価懇話会	<p>委員からの意見</p> <p>①試行的な段階であるので難しいところであるが、この事業の趣旨は、地域が、教師を支援することにあるのではなく、子どもたちを支援することにある。今後、他の地域などにおいても期待される事業であるだけに、教師の役割は本来どのようなものかを含めて、あらためて、事業の趣旨に立ち返って、今後の事業のあり方について検討する必要がある。</p> <p>②国の委託が終了した後においても、取組が定着していくことが必要である。</p> <p>③モデル事業として実施している間に、学校支援ボランティアのあり方を検討しておく必要がある。</p> <p>意見に対する考え方</p> <p>①地域協議会において、学校（教師）がやらなくてはならないこと、地域ができることを確認するために話し合っているように投げかけていきたいと考えます。また、子どもたちとの関わりができるような取組になるよう進めていきたいと考えています。</p> <p>②モデル事業として事業の取組状況や成果などの広報活動と他地域での取組についての情報収集に努め、取組が拡大、定着するよう市全体の協議会の組織化を目指していきます。</p> <p>③ボランティアのあり方を考えていくとともに、コーディネーターの育成も課題であります。</p>
今後の方針等	モデル事業として取り組んでいるが、他地域で学校支援の取組ができるようであれば支援をしていきます。

平成20年度 事業評価シート

4-③

事業名	図書館整備事業	担当課	生涯学習課
------------	---------	------------	-------

取組方法(年度当初)	<p>平成19年9月に策定しました上田市図書館基本構想に基づき、市民との協働による地域に根ざした図書館づくりを進めるため、それぞれの地域教育事務所と連携しながら図書館建設計画を進めます。</p> <p>真田図書館については、地域住民による運営研究会を発足し、施設整備計画（建設場所、施設概要）を策定するとともに、地域住民による運営について検討します。</p>		
達成状況(年度末)	<p>真田地域において地域主導による図書館建設、運営を行うため、7月に真田図書館建設運営研究会を発足し、施設整備計画をまとめ、実施設計と耐震危険調査に着手しました。また、市民との協働による図書館運営について検討を開始しました。</p>		
具体的な取組内容	内容	事業費 (千円)	内国県補助金 (千円)
	真田図書館建設運営研究会の設置(20人)	0	0
	会議の開催(6回)と講演会の開催(1回)	0	0
	施設整備計画のまとめ(建設場所と施設概要の決定)	0	0
	実施設計と耐震危険調査業務を発注	16,590	0

自己評価	A
-------------	----------

今後の課題等	<p>これまでの真田地域の図書館づくりに対する熱意に応えるため、地域協議会の意見を尊重し、地域経営会議で早期建設に向けた方向づけを行うことができました。</p> <p>新たな図書館整備を行ううえで、より多くの皆さんに利用され、地域に親しまれる図書館づくりが必要であり、引き続き市民協働の視点による図書館運営も併せて検討していく必要があります。</p>
上田市教育行政評価懇話会	<p>委員からの意見</p> <p>①真田地域における図書館建設は、合併前からの念願であった。老若男女すべての住民が気軽に利用でき、住民にとって憩える場である、特色ある地域に根ざした図書館となることを期待している。</p> <p>②事業名から判断すると、真田図書館の建設に限定するのではなく、市内における図書館整備全体の進捗状況について、評価を行うべきである。</p> <p>意見に対する考え方</p> <p>①図書館のあり方については、中央教育審議会の答申や図書館法の改正の趣旨なども踏まえ、学習会の開催や市民組織による検討など、市民の意見を取り入れた図書館建設やサービスの充実を図っていきます。</p> <p>②上田市図書館基本構想に基づき、真田地域に引き続き丸子地域に図書館の建設、武石地域に図書室の設置、上田図書館の整備などがあり、全体の整備を視野に入れて各年度ごとの達成状況を判断しながら評価していきます。</p>
今後の方針等	<p>真田地域に引き続き、地域住民の要望が強い丸子地域の図書館整備に向け、現有施設の有効活用も含め、建設に向けた検討が必要です。</p>

平成20年度 事業評価シート

4-④

事業名	青少年体験活動推進事業	担当課	生涯学習課
------------	-------------	------------	-------

取組方法(年度当初)	キャンプ等子どもたちが学校や家庭では体験できない事業を実施するとともに、子どもたちが自主的・自発的に様々な活動に参加し、豊かな心が育つよう、地域における子ども会育成会等の活動を支援します。		
達成状況(年度末)	子どもたちが学校や家庭ではなかなか体験できない事業を計画し（ウグイの飼育、海洋教室、川遊び、里山遊び体験教室、キャンプ等）6事業に延べ226人の子どもたちが参加し、地域の大人の協力を得て、異年齢集団による様々な体験活動を実施しました。		
具体的な取組内容	内容	事業費 (千円)	内国県補助金 (千円)
	ウグイの稚魚の飼育と放流事業(6/15、10/12)	8	0
	海洋教室(6/21～22)	16	0
	野外活動体験教室(川遊び(7/5)、キャンプ(8/3～4)、里山遊び(9/13))	312	0
	わんぱくキャンプ(7/26～28)	504	0

自己評価	B
-------------	----------

今後の課題等	事業に参加した子どもたちは、普段の生活の中では体験できない貴重な体験ができたと考えられます。事業が6月から9月に集中しているが、他の時期にもできる事業がないか検討していきます。上田地域以外の地域の子どもの事業への参加が少ない傾向にあるので、事業実施日、場所等も検討していきます。
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見 ①キャンプによる効果を研究しているが、キャンプは期間が短いと効果は期待できない。また、夏期に事業が集中しているが、通年を通して事業を実施すべきである。 ②これまでに参加したことがない子どもが参加できるように、周知の方法を含め検討が必要である。 ③自治会単位の子ども育成会の活動の充実に寄与するように、子ども会育成連絡協議会の事業の展開を図るべきである。特に、自治会単位の子ども育成会でリーダーとなるべき、スタッフの育成は必要不可欠である。
意見に対する考え方	①事業実施時期・内容等について、子ども会育成連絡協議会とも協議しながら今後検討していきたいと考えています。 ②事業内容も検討しながら、事業に参加したことのない子どもたちも参加できるように、参加者募集方法を今後検討していきます。 ③今後、子ども会育成連絡協議会と協議し、自治会単位の子ども会及び育成会のリーダーとなる者を養成する事業の実施を支援していきたいと考えています。
今後の方針等	今年度の全体事業として実施した各種青少年体験事業を参考に、各自治会の中でも実施してもらえるように、単位子ども会育成会を中心に呼びかけていきます。 事業を実施する場合、子どもたちに主体性を持たせ、自主的・自発的に様々な活動に参加できるような内容の事業となるように、さらに工夫していきます。 地域で青少年を対象とした様々な体験活動を実施できる指導者を養成する事業を実施していきます。

平成20年度 事業評価シート

4-⑤

事業名	人権同和教育推進事業	担当課	生涯学習課
------------	------------	------------	-------

取組方法(年度当初)	今日もなお存在する人権侵害や不当な差別の解消に向け、平成19年度に実施した「人権問題に関する市民意識調査」の結果を参考に、「人権尊重のまちづくり条例」に基づき、平成20年度から5年間の市の人権同和教育の基本方針を策定し、人権同和教育施策を推進します。		
達成状況(年度末)	市民意識調査では、同和問題に加え新たに重要課題の6項目を加えて調査し、その結果を捉えて人権尊重のまちづくり審議会や教育委員会の協議を経て、平成21年3月に人権同和教育の基本方針を策定しました。		
具体的な取組内容	内容	事業費 (千円)	内国県補助金 (千円)
	人権同和教育の基本方針の策定	42	0
	学校人権同和教育の推進	4,244	0
	地域人権同和教育の推進	3,301	100
	企業人権同和教育の推進	231	0
	人権啓発推進委員会への支援	0	0

自己評価	B
-------------	----------

今後の課題等	人権同和教育は、学校、地域、職域で取り組まれ、地域住民等の人権意識が高揚し、人権尊重の社会づくりに一定の成果を上げました。 今後は、現実のさまざまな人権問題に学び、その痛みを感じ自らの問題として解決していく意欲や実践力を身につけ、人権尊重の精神が態度や行動に現れるように事業を実践していくことが課題です。
委員からの意見	①策定された基本方針において、差別をなくす人権同和教育から人を大切にする人権同和教育に転換したことは、画期的なことである。人を大切にする意識や活動づくりを目指すことを掲げている基本方針に期待する。 人権同和教育は、地道に粘り強く継続的に実施していく必要がある。
意見に対する考え方	①人権同和教育は一朝一夕で目的を達成できるものではなく、継続的に事業を実施するなどの取組が必要です。 今後、人権尊重のまちづくりを構築するためにも継続的に粘り強く事業に取り組むことにより、一人ひとりの自尊感情を育て、人権感覚を磨き「共に生きる社会」の実現に努めます。
今後の方針等	平成21年度は、人権同和教育の基本方針の目標から、学校、地域、職域など各団体と連携・協働し、ニーズにあった手法を用いるなど、学校・社会人権同和教育等事業を実践し、結果として人権尊重の態度や行動に現れることを積極的に認知し、自尊感情の高まりを支援していきます。

平成20年度 事業評価シート

5-①

事業名	総合型地域スポーツクラブ支援事業	担当課	体育課
------------	------------------	------------	-----

取組方法(年度当初)	生涯にわたりスポーツに親しむことができる環境整備を推進するために、引き続きだれもが参加できる総合型地域スポーツクラブ（さなだスポーツクラブ、たけしスポーツクラブ、うえだ総合型地域スポーツクラブUSC）に対する支援を行います。		
達成状況(年度末)	総合型地域スポーツクラブへの支援については、上田地域で平成20年5月25日に設立されたうえだ総合型地域スポーツクラブUSCへ2,000千円、さなだスポーツクラブへ2,500千円、たけしスポーツクラブへ600千円の運営費補助を行いました。今後も引き続き支援を行ってまいります。		
具体的な取組内容	内容	事業費 (千円)	内国県補助金 (千円)
	各総合型地域スポーツクラブへの事業費補助	5,100	0

自己評価	A
-------------	----------

今後の課題等	未設置の丸子地域でのクラブ設置について計画通り進めていく必要があります。また、既設のクラブも含め、今後、各クラブが会員からの会費等により自主運営できるよう、支援を行っていく必要があります。
上田市教育行政評価懇話会	<p style="margin-left: 20px;">委員からの意見</p> <p>①うえだ総合型地域スポーツクラブUSCは、神川地区が中心となっているため、神川地区に限定されるイメージがあるので、積極的なPRが必要である。</p> <p style="margin-left: 20px;">意見に対する考え方</p> <p>①広報うえだ等を活用し、総合型地域スポーツクラブの活動状況等について積極的なPRを実施します。</p>
今後の方針等	地域ぐるみの世代を超えたスポーツ活動の推進のために、総合型地域スポーツクラブ設立後の一定期間について、財政的支援を行ってまいります。なお、総合型地域スポーツクラブは、受益者負担による自主運営が原則となるため、今後は、財政的な支援のみではなく、自立に向けての支援について検討を進めます。

平成20年度 事業評価シート

5-②

事業名	上田市スポーツ振興計画策定事業	担当課	体育課
------------	-----------------	------------	-----

取組方法(年度当初)	第一次上田市総合計画、長野県スポーツ振興計画などの上位計画との整合を図りながら、地域の特色を生かしたスポーツ振興及びスポーツ環境の整備を計画的に推進するために、今年度中に「上田市スポーツ振興計画」を策定します。		
達成状況(年度末)	第一次上田市総合計画、長野県スポーツ振興計画などの上位計画との整合を図り策定する予定でしたが、スポーツ振興審議会の設立ができず、具体的な検討ができませんでした。今後、上田市スポーツ振興計画の策定を進めていきます。		
具体的な取組内容	内容	事業費 (千円)	内国県補助金 (千円)
	各市の策定状況の把握と計画構成の検討	0	0

自己評価	C
-------------	----------

今後の課題等	第一次上田市総合計画、長野県スポーツ振興計画などの上位計画との整合を図りながら、地域の特色を活かした計画策定が必要です。
上田市教育行政評価懇話会 委員からの意見	<p>①地域の特色を生かした計画策定が必要である。あわせて、今後の医療費の増高を考えると、スポーツはできないが、体を動かす必要がある人のための施設を整備し、体を動かすことを推進していく必要がある。（例：真田地域の全天候型ウォーキングロード）</p> <p>②目標の達成状況を、事業名から判断すると、目標達成度における評価点の見直しが必要である。</p> <p>③上田地域はアーチェリーが盛んであるので、その点も考慮した、特色ある計画づくりを期待している。</p>
意見に対する考え方	<p>①生涯スポーツの推進等、地域の特色を活かした計画としていきたいと考えています。</p> <p>②今後は、目標達成度の実状を踏まえて評価を実施したいと考えています。</p> <p>③アーチェリーをはじめとした、各地域の特色あるスポーツ等を考慮した、計画づくりができるように努めます。</p>
今後の方針等	スポーツ振興審議会を設置し、地域の特色を生かしたスポーツの振興及びスポーツ環境の整備を計画的に推進するための計画を早急に策定してまいります。

平成20年度 事業評価シート

5-③

事業名	スポーツ施設整備事業	担当課	体育課
------------	------------	------------	-----

取組方法(年度当初)	地域におけるスポーツの場を整備するため、日常生活の身近な場所に地域の実状に応じたスポーツ施設の充実を図ります。		
達成状況(年度末)	<p>当初予定していた各施設の工事及び修繕を実施しました。また、国の緊急経済対策に伴う21年度実施予定工事の早期実施など環境の整備に努めました。</p> <p>◎主な実施工事：城跡公園陸上競技場改修工事、依田窪プール設備等改修工事、真田運動公園トイレ改修工事、武石テニスコート改修工事 他</p>		
具体的な取組内容	内容	事業費 (千円)	内国県補助金 (千円)
	学校体育施設の開放	1,232	0
	各施設の工事及び修繕	57,201	0
	各施設の工事及び修繕(国の緊急経済対策 前倒し実施分)	24,587	23,950

自己評価	A
-------------	---

今後の課題等	各施設の維持管理上必要な修繕箇所の中から、優先順位の高い修繕及び工事を行ってきておりますが、各施設とも老朽化が進んでいることから、今後は、計画的な施設整備が必要になっています。
上田市教育行政評価懇話会 委員からの意見	5-②上田市スポーツ振興計画策定事業による。
意見に対する考え方	上田市スポーツ振興計画に盛り込まれる、各地域の特色や上田市としての方向性を尊重し、上田市全体での施設整備計画を検討するとともに、市民が安心して施設を利用できるように、整備を進めてまいります。
今後の方針等	市民要望にも配慮しながら、施設の有効活用と安全面を第一に考えた施設整備を進めるとともに、施設の整備計画の策定に取り組みます。